

第5節 基本目標5「伝 歴史と文化を大切にし伝えていくまち」を実現するために

伝 歴史と文化を大切にし、伝えていくまちを実現するための取り組みの概要

住民主体の活動への提言

- 伝統行事の復活への取り組みを進めましょう
- 昔話や昔の遊びの伝承を宅老所や小学校、幼稚園、保育園などでの世代間交流を通じて取り組みましょう
- 自然や環境を守る活動への参加を進めましょう

市としての政策・社会福祉協議会の取り組み

（あらゆる世代の交流を通じた歴史・文化の伝承）

- 伝統行事・文化の継承・情報発信を支援します（市）
- 環境にやさしい行動ができる人の輪を広げる取り組みを進めます（市）
- 昔の遊びを伝える活動を福祉教育として支援します（社会福祉協議会）
- 宅老所等における世代間交流を支援します（社会福祉協議会）

1. 住民主体の活動への提言

④ 活動の具体例

こんな取り組みを進めましょう

小地域で伝統行事の復活

地域で子どもたちに伝えていきたい伝統行事について話し合っ、それを地域みんなで行ってみてはどうでしょうか。若い人や学校などを巻き込んで、みんなが楽しめるような工夫をすることが必要です。こうした取り組みによって、地域が一つになり絆も深まっていくのではないのでしょうか。地域のお祭りや虫送りなど、地元に着した伝統行事を見直し、復活させましょう。

こんな取り組みを進めましょう

宅老所などの活動で世代間交流を促進

従来は、高齢者は高齢者、子どもたちは子どもたちと世代ごとの取り組みが多かったのではないのでしょうか。これからは、今までの取り組みに世代間で交流できる要素を加える工夫をしていくことも必要です。核家族化が進む中で、高齢者と交流する機会が少ない子どもも増えています。昔の遊びや生活の知恵などを高齢者が伝えていくことで、自然な形で高齢者への尊敬も芽生えていくはずで。

こんな取り組みを進めましょう

小学校と連携して昔の遊びを伝承

小学校や幼稚園、保育園などと地区福社会や民生委員・児童委員が連携して、学校で昔の遊びを教える機会を作るとい取り組みを行っている地域もあります。竹馬作りや、紙飛行機づくりなどを通じて、子どもたちとふれあい、交流する機会にもなります。子どもたちと大人たちが顔見知りになることで、ふれあいやあいさつが自然に生まれる地域になっていくのではないのでしょうか。

こんな取り組みを進めましょう

地域活動の先頭に立って伝えていく人が必要で

社会は便利になり、そして快適になりました。その反面、人間として大切なことを失ってしまったと感じている人は多いはずで。しかし、地域の力の可能性がないわけではありません。若者たちもよく話をしていけば、様々な可能性ややる気をもっています。「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」という思いをもって誰かが動き出さなければ何もはじまりません。まず、これを読んだみなさんが自分の地域のすばらしさを見直し、何か行動を起してほしいのです。

地域に根付く歴史や文化を伝えていくためには、伝統行事を復活させたり、昔話や昔の遊びの伝承に世代間交流を通じて取り組む必要があります。子どもや家族、お年寄りなど地域の人々が、和気あいあいと話しをしたり、昔話をしたり、昔の遊びをしながら交流していくことができれば、地域の人々がふれあい安心して暮らせる地域社会を築くことができるはずです。

歴史や文化、自然を伝えることはこれまでは福祉とは関係ないものと考えられてきましたが、高齢者と若い世代、子どもたちとの交流が深まれば、地域の絆も強まり、高齢者への尊敬も自然と生まれてくるはずです。福祉を狭くとらえずに、伝統や文化、自然という観点から地域活動を見直し、福祉の問題へとつなげていくことが大切なのではないのでしょうか。歴史や文化を伝えることを通じて、地域の絆を強め、安心して暮らせる地域につながっていくのです。

100人委員会からの意見

こんな意見が出されました！

- ◇ 子どもが家庭や集会所などで、家族や近隣の人々、老人から昔の遊びを学び、日本の文化を学び伝えていく
- ◇ 子どもたちがきれいな山や川、町の公園で安全安心で楽しく遊べる
- ◇ 赤ちゃんを抱っこしよう！
- ◇ 昔話や昔の遊びを伝承する
- ◇ 世代を越えたふれあい・つどい
- ◇ 文化・伝統を継承できる地域の将来を考える
- ◇ 子どもたちがきれいな山や川や町の公園で安全・安心で楽しく遊べる環境
- ◇ 里山・海岸の保全
- ◇ 河川その他の清掃の徹底 地域で年間目標を立てる
- ◇ 美化活動に参加する
- ◇ 海の問題 海の文化守る
- ◇ 草花の管理を当番で行う
- ◇ ゴミ拾いなどのボランティア活動を進める
- ◇ 高齢者を含めた各世代間の交流をはかる
- ◇ 都市街路樹の緑化を進める
- ◇ 老人から昔の遊びを学び、日本の文化を学び伝える

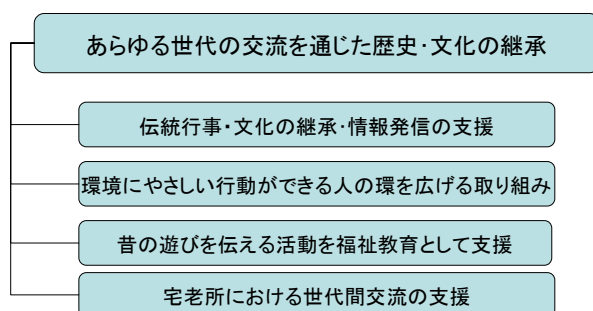


100人委員会の様子

2. 市としての政策・社会福祉協議会の取り組み

市や社会福祉協議会は、こうした住民の主体的な取り組みを支えていく必要があります。そのために、以下のような取り組みを今後も継続して進めていきます。

⑧ を具体化する政策・取り組みの体系



（１）伝統行事・文化の継承・情報発信

①伝統行事・文化の継承・情報発信の支援（市）

<現状>

保育園、幼稚園、小学校等では、授業等や地域との関わりの中で、地域の伝統行事や文化の継承についての取り組みを行っています。特に市の無形文化財として指定されている「射和の祇園まつり」や「各地区のかんこおどり」などは、地元の保存会と一緒に小学生・中学生も参加している状況です。

また、各地区の公民活動の中で、伝統行事や文化を取り上げて、情報発信されています。

<課題>

✧ 少子高齢化が進む中で、伝統行事や文化は、地域に子どもがいないために、また高齢者ばかりで継承者がいないことによって無くなっていく場合が想定されます。今のうちにこれらの行事について地域ぐるみで保存と継承を考えていくことが必要となっています。

<取り組みの方向>

✧ 無形文化財に指定し、支援するのみでなく、伝統行事や文化は、地域の誇りであるとの意識を持ちながら、地域で取り組みを積極的に進める必要があります。

✧ 小さな集落での継承が困難であれば、大きな単位（小学校区単位）での継承を考えていく方策を進めることも必要です。

②環境にやさしい行動ができる人の環を広げる取り組み（市）

<現状>

市内には、自然や環境を守る活動を率先して実践している市民や、そのような市民がリーダー的存在となって積極的に活動している市民団体が多くあります。同様に、事業活動を行う事業者の中には、地域の環境保全活動に積極的に取り組んでいるところも少なくありません。

<課題>

- ☆ 市民・市民団体や事業者そして行政も含めたそれぞれの主体間において、自然や環境を守る活動に関する情報の提供と連携を図る場や機会は、十分に整っていない状況です。
- ☆ 多様な主体が参加でき、環境保全活動を協働して実践できる仕組みづくりを進める必要があります。

<取り組みの方向>

- ☆ 行政、市民、市民団体、事業者、教育機関の各主体が協働して環境にやさしい行動を実践できるように、「松阪市環境パートナーシップ会議」の設置に取り組み、会議への参加を促進します。

③昔の遊びを伝える活動を福祉教育として支援します（社会福祉協議会）

<現状>

福祉教育推進事業として、昔の遊びを伝えるなどの活動を進めています。竹馬・水鉄砲・竹がえし・しめ縄づくりの他に、松阪らしい取り組みとしては、藍染などがあります。また、昔の地図を作成して後世に伝える活動をしたいという地区もあり、福祉教育事業の一環としてこうした活動を支援していきます。

<課題>

- ☆ こうした取り組みを地域で進めて行くことは重要ですが、個人の努力に頼りすぎているのも現状です。

<取り組みの方向>

- ☆ 福祉事業を狭くとらえず、伝統行事や昔の遊びを伝える活動を福祉教育の一環としてとらえることで、地区福祉会の活動として取り組んでいくことができるよう支援していきます。

④宅老所における世代間交流の支援（社会福祉協議会）

<現状>

高齢になると家に閉じこもりがちになったり、寝たきりに近い状態になるなどで、家族以外の社会とつながりがなくなる結果として、生きがいをなくしたり認知症を引き起こしたりします。

生きがいの支えや認知症の予防として、元気な高齢者が中心となり、閉じこもりがちな高齢者や一人暮らし高齢者などを交えた 10 名以内の小グループを作ること

による活動に対し、介護予防的な支援をしてきました。

<課題>

- ☆ 同じ世代の人達だけで集まり、共通の話題で会話も弾み、互いの趣味等の啓発にもつながり楽しいと思います。しかし、同世代の交流だけではやはり情報も少なくなりがちです。もっと範囲を広げての世代間交流ができれば、高齢者の役割や楽しみも広がるはずです。

<取り組みの方向>

- ☆ 宅老所は、小地域で組織した参加者が4人～10人までのグループです。同じ地域の中には若い世代の親子も必ず生活していらっしゃるはずです。小さな子どもを交えた交流の場をもてば、その中に自分の昔の振り返りができ、当時の伝統行事等をその若い世代に伝えることができるはずです。活動の範囲が広がるよう社会福祉協議会として支援をしていきます。